

♪宗次ホールおすすめ公演情報 2017年2月♪

チケットのご予約は 宗次ホール チケットセンターへ 052-265-1718(営業時間10:00-18:00)

厳しい寒さが続きますが、みなさまいかがお過ごしでしょうか？今月も寒さ吹き飛ぶ公演をたくさんご準備しております！コンサートが沢山ありすぎて、どれを選べば良いかわからない！というお客様には、2月10日(金)の午後に予定しております「コンサート選びのヒント講座」(参加無料)がおすすめです♪

【文責:宗次ホール企画担当 廣田 政子(ひろた まさこ)】

“卓越したテクニックと稀有な音楽性でオーボエという楽器の魅力を広く世に広めて欲しい”という私達の願いを着実に果たしてくれている史上屈指の名手

中野雄(音楽プロデューサー)

渡辺 克也 オーボエ/小林 有沙 ピアノ

2月17日(金)18:45開演 3,500円(学生2,100円) [指定]



欧州各地の名門歌劇場オーケストラで活躍し続けている渡辺さん。長年の演奏経験を通じて、「自分の演奏は当然変化した」と仰います。それはドイツのオーケストラは、日本のオーケストラよりもはるかに音量が大きいためだそう。確かに欧州のオーケストラの腹の底まで響くようなff、身体全体を使って中腰になる勢いで

演奏する各団員の熱さは凄まじい迫力。その中で十分に自分の音を響かせるにはオーボエの音量も当然大きくなければ負けてしまいますので、“オーボエの器を大きくしていく必要”があります。

「音色」という日本語がありますが、ドイツ語でそれに当たる言葉「クラング」は少し意味が異なり、やや平面的なイメージの「音色」だけでなく、反射音等も伴う立体的な「響き」のニュアンスだそう。興味深いことに、渡辺さんはこの欧州の立体的な「響き」の概念が建築文化と深く関わっていると指摘されます。「響き」を生むのは、具体的には欧州の建築物に多く用いられる反響の豊かな「石材」、そして良く共鳴する高い天井。なんだかこれは、宗次ホールのことのようにではないですか！天井が低く、畳や障子で出来ている日本家屋と違い、「響き」と常に接する環境では自然と耳と感覚とが研ぎ澄まされます。

効率よく振動させ、響かせるには力任せに鳴らせば良いというわけではなく、必要最小の力でいかに振動させるか、ということが大切で、これこそがドイツで得た最大の収穫と仰る渡辺さん。

是非、宗次ホールでその響きを体感してください！

チェンバロのことはよく知らないから、聴いてもわからないかも…クラシックは難しい…という考えは置いてきてください。

(本人インタビューより)

曾根 麻矢子 チェンバロ

2月18日(土)18:00開演 3,500円(学生2,100円) [指定]



昨年11月「大人の音楽学校」にも登場、その音色とお話で聴衆を魅了した曾根さん。終演後にはチェンバロの周りに多くのお客様が集まって楽器を覗き込んでいました。元々ピアノを専攻されていましたが、チェンバロを知ってからは、それ以外では考えられなくな

ったという曾根さん、「チェンバロの魅力はとは何ですか？」という質問に対して「それは、あなたの恋人の魅力は何ですか？と聞かれるのと同じくらい難しい質問ですね(笑)」とおっしゃるほどベタ惚れ！敢えていうと、その音や構造の全てだそう。

チェンバロは鍵盤を押すと内部の爪が弦を弾いて音を出します。一つの音だけで強弱はつけられないので、音と音の関係や積み重ねで強弱をつけるのです。一つひとつは小さな繊細な音ですが、多くの音が重なりあって、木でできた楽器の中で共鳴した音がホールの中で増幅されて聴き手の耳へと届きます。もともとサロンのような小さな場所で楽しまれていたチェンバロ。今回のプログラムもバッハやヘンデルのよく知られた曲からラモーのような抒情的で親しみやすい曲まで！まだ宗次ホールでチェンバロを聴かれたことのないお客様にも是非初体験して頂きたいコンサートです！

正に“完璧”な演奏。

私はこの言葉を軽々しく使うことは決してない

(New York Concert Review)

フランシスコ・フラナ ヴァイオリン
デヴィット・フォン ピアノ

3月9日(木)18:45開演 3,500円(学生2,100円) [指定]

3月分ですが、是非聴いて頂きたい公演です。2年前の宗次エンジェルヴァイオリンコンクールで優勝し、ストラディヴァリウス「レインヴィル」を貸与され、その貸与終了に伴い開催されるこの記念公演。「この楽器を弾くことができたことは、正に私にとって夢が叶った、という経



験でした。この素晴らしい楽器は注意深く自分の音を聴くことを助けてくれます。バックにどれほど大きなオーケストラが在ろうとも、いつでも自由に“自分らしく”弾かせてくれる、そんな楽器でした」とお話しして下さいました。

フラナさんはこのレインヴィルを今回の公演を機に返却されますが、この先ストラディヴァリ・ソサエティ(米)によりガアルネリ・デルジュス“メリー・ポートマン(1735年製)”の貸与が既に決まっています。この楽器は、かのクライスラーが所持していたこともあるという、フラナさんの言うところの「弦楽器界の王冠の宝石」! このような楽器を手にする事ができるのは、フラナさんの実力あってこそ。

今回一緒に来日されるピアニスト、フォンさんもルービンシュタイン国際やエリザベート王妃国際で入賞を果たしている実力派。二人はつい先日のフラナさんのカーネギー・ホール(NY)デビュー公演でも共演し、「二人の対話は技術・スタイル共に非の打ちどころがない」と各紙に大絶賛されました。

「安定感、正確さ、魅惑的な音、パワー、そして陰影。全てを持っている名手」と評されるフラナさんがレインヴィルを奏でる最後の機会です! お聴き逃しなく!

今回のプログラムはカーネギー・ホール・デビュー・コンサートとほぼ同じプログラム。「勇敢で慎まじやか、一線を画した、まさに“壮観”」と評された演奏、お聴き逃さないように!

お得なスイーツタイムコンサート!

13:30開演 2,000円 自由席 ※終演15:00予定

プレゼントチケット(ギフト券セット購入のおまけ等)2枚で入場可能

★チャリティーシート(指定席)AB列中央付近23席限定

スイーツタイムコンサートは、これからクラシック音楽をじっくり聴いてみたい、夜は出かけづらいので昼間に本格的な演奏を楽しみたい、という方にぴったり。国際的にも活躍するベテラン演奏家から気鋭の若手まで、2,000円ではお得すぎるほどの素晴らしい演奏家達です。ご期待下さい!

アレクサンデル・ガジェヴに続き、 浜松国際ピアノコンクール第2位の…!

2月7日(火) ロマーン・ロパティンスキー
ピアノ

「今回は非常にレベルが高く、特に本選の6人は上手すぎました」と海老彰子審査委員長が話し、会場も大いに盛り上がった第9回浜松国際ピアノコンクール(浜コン)。昨年12月に熱演を披露して下さいましたガジェヴさんに続き、ロパティンスキーさんの登場です! 「彼のピア



ニズムからは、すでにプロの演奏家らしい要素が感じられました」と海老さんに絶賛されたロパティンスキーさんは93年キエフ生まれ、ピアニストのご両親のもと子供の頃から音楽に囲まれて育ちました。祖国ウクライナでは既に若手ピアニストとして活躍しており、子供の頃から演奏前に緊張したことは一度

もないそう! ステージでの振る舞いはさすが、堂々としていらっしゃいました。ソリストとしてオーケストラと何度も演奏した経験から指揮にも興味があり、指揮者の道も目指しています。

有名曲から超絶技巧までたっぷり楽しんで頂ける今回のプログラム、ベートーヴェン「悲愴」とストラヴィンスキー「ペトルーシュカ」はどちらも浜コンの予選でも演奏した作品です。5月12日(金)には同じくスイーツタイムに、浜コン第3位のダニエル・シューさんが登場します。是非聴き比べてみてください♪

彼女は大変な勉強家。元々上手かったが、以前よりも大きくなって帰ってきた! 堤剛(チェリスト)

2月22日(水) 新倉瞳 チェロ

朝永侑子 ハープ



大学在学中にCDデビューし、早くから注目を集めていた美しいチェリスト、新倉さん。ですが真摯に音楽と向き合い腕を磨きたかった彼女にとって、早すぎた注目が次第に息苦しく思えるように。殻を破る為に決めたスイス留学。留学先では優秀なクラスメイトたちとの競争の中で、

初めてのクラス内演奏では自分の演奏に満足がいかず、一人涙を流してしまうこともあったそうです。しかし、スイスに行ってから精神的に自由になれ、素の自分に戻れたと言います。今は「相手にどんな言葉を投げかけたら、私の気持ちが伝わるだろう、という対話として音楽を考えていて、合奏は人間関係と一緒に、自己主張するばかりでなく、相手が気持ちいいように弾かないといけないと思っています」と。美しいハープとの対話をお楽しみください。

チケットのご予約・お問い合わせは
宗次ホールチケットセンターへ
☎ 052-265-1718(10時~18時)
お気軽にお電話ください!